

がん診療連携拠点病院等の整備

○ がん診療連携拠点病院等の整備状況

1 基本的な考え方

- (1) 全県レベルの機能として、以下の病院を整備
 - ・ 県立がんセンター新潟病院【都道府県がん診療連携拠点病院】
 - ・ 新潟大学医歯学総合病院【特定機能病院、大学病院】
- (2) 地域レベルの機能として、各二次医療圏に地域がん診療連携拠点病院及びがん診療連携拠点病院に準じる病院を整備し、各地域のがん診療を担う。
- (3) 空白医療圏（県央）については、隣接する医療圏の拠点病院等がカバーする。

2 拠点病院等の指定状況（R6. 4. 1～）

区 分	病院名	医療圏	指定日 (初回)
都道府県がん診療連携拠点病院	県立がんセンター新潟病院	新潟	H19.1.31
地域がん診療連携拠点病院	長岡赤十字病院	中越	H18.8.24
	県立新発田病院	下越	H20.2.8
	新潟市民病院	新潟	H18.8.24
	新潟大学医歯学総合病院		H19.1.31
	長岡中央総合病院	中越	H18.8.25
	県立中央病院	上越	H18.8.26
	魚沼基幹病院	魚沼	R3.4.1
地域がん診療病院	佐渡総合病院	佐渡	H29.4.1
がん診療連携拠点病院に準じる病院	立川総合病院	中越	H24.4.1
	柏崎総合医療センター		
	上越総合病院	上越	
	西新潟中央病院	新潟	H26.4.1
	済生会新潟病院		H27.4.1

3 空白の二次医療圏の解消に向けた取組状況

県央圏域については、県央基幹病院（令和6年3月開院）が、がん診療を担っており、将来的には地域がん診療連携拠点病院の指定を目指していくこととなる。

○ 地域連携クリティカルパスの活用状況

- ・ 本県では、県医師会及びがん診療連携協議会の協力のもと、平成23年4月から5大がん全県統一クリティカルパスの運用を開始。
- ・ クリティカルパスを適用した患者の延べ人数は年々増加している。

【数値目標】	基準(策定時点)	R5 年度	目標年度
拠点病院で5大がん全県統一の地域連携クリティカルパスを適用した患者の延べ人数	71 人/月	100 人/月	基準より増加

※ 出典：新潟県がん診療連携協議会情報連携部会資料

放射線療法、化学療法及び手術療法の更なる充実とがん医療に携わる医療従事者の育成

○ がん診療連携拠点病院等におけるチーム医療体制の整備状況

【基本的な考え方】

患者とその家族に対し、安心かつ安全で質の高いがん医療を提供できるよう、各職種間の連携と補完を重視した多職種によるチーム医療を推進する。

指標(例示)	がん診療連携拠点病院等におけるチーム医療体制の整備状況 (月1回以上)	標準的な医療チームによるがん治療 サポート体制の整備状況
該当病院数	9/9病院(100%)	9/9病院(100%)

※ 出典: R5 がん診療連携拠点病院新規指定・指定更新・現況報告書

○ がん治療に携わる医療従事者の育成

【国立がん研究センター実施の研修会受講の促進】

専門的ながん医療を推進していくため、国立がん研究センターが実施する研修会受講の促進を図るため、情報提供の実施や受講者の調整を図っている。

がんと診断された時からの緩和ケアの実施

○ 緩和ケア研修会の実施状況 (H18 年度～)

緩和ケア研修会の受講により、基本的知識を習得した医師数等は増加した。

年度	～H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
修了者数(人)	1,540	239	307	288	221	173	118	192	209	220	3,507

○ 緩和ケアチームの設置状況

多職種によるチーム(医師・看護師・薬剤師・MSW・心理士等)により、緩和ケアチームの設置をすべての2次医療圏において整備する。

医療圏	下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡	合計
整備施設数	1	4	3	5	3	2	1	19

※ 出典: 医療機能調査

働く世代や小児へのがん対策の充実

○ 働く世代等のがん検診受診率向上に向けた取組の実施

職域でがん検診を受診する機会のない方を市町村の検診につなげる取組や各保険者と協力し、がん征圧月間等に併せて全県での一斉広報等を実施。

○ 長期療養者就職支援担当者連絡協議会の設置 (H28 年度～)

関係機関が長期療養者の就職支援に係る具体的な連携事項等について協議。

○ 長期療養者に対する就職支援事業 (新潟: H28 年度～、長岡: H31 年度～、新発田: R3 年度～)

ハローワーク新潟・長岡・新発田に専門相談員(就職支援ナビゲーター)を配置し、がん診療連携拠点病院等と連携してがん患者等に対する就職支援事業を実施。